

平和な世界へ

那覇市立識名小学校六年 伊志嶺 優月

みなさんは、「戦争」ときいて、どのようなことを思いうかべますか。人と人が争って、たくさんの人が死んでいく。食べ物もない水もない、じごくのような生活。そんな風に思った人が多いのではないのでしょうか。私が最初、「戦争」と聞いて思いうかべたことは、たくさんの人々の「死」でした。

米軍の爆弾により、死んでしまった人も多く、中には「アメリカの兵につかまるより、自分で死んだ方がいい。」と、集団自決をして亡くなる人もいました。

私の祖母は、戦争が始まった時に生まれました。その頃は食べ物も水も見つけられず、また、水を飲もうとすると、水には血がまぎっていることもあったそうです。道や川を歩くときには、死体をふんでいかないと歩けないときもあったそうです。避難場所のガマでは兵が優先で、住民が追い出されてしまう。そんな環境だったそうです。

私はそれを聞いて、ゾッとしました。「日本兵は住民を守りにきたはずなのに、どうして追い出すのだろう。」そう思いました。食べ物も水も無く、暑さに苦しむ生活。こんな生活が続くなら、いっそのこと死んでしまった方が楽なのではないだろうか。きっと私もそう考えてしまったかもしれません。

戦争が終わった後も、苦痛の日々が続き、食べ物はサツマイモが主で、それも十分な量は与えられず、皆、お腹をすかせていたそうです。

米軍からのこうげきは地上からだけでなく、空からもあったそうです。空からも爆弾が落ちてきて、爆弾のしょう激で散った爆弾に当たって死んでしまう人や爆弾の放射線により死んでしまう人、爆弾の爆風で死んでしまう人もいたそうです。

私は、祖母が戦争を体験していて、このような話を聞いて、良かったと思えました。なぜなら、祖母の話聞けずに、私が戦争に興味を持た

なかったら、いくら戦争の話を知ったり、資料を読んだりしても理解できないままだった気がします。でも祖母が、私にずっと、自分の体験を話してくれたから、私は真剣に、戦争に向き合えたと思います。

祖母の世代の方々が亡くなってしまっていると、誰も戦争の事を語れなくなりそうです。そうになると、私より下の世代は戦争のどんくささ、恐怖、苦痛を知らなくなりますが、そうならないために、私たちが次の世代に伝えていかなくてはなりません。そうしなければ、これから生まれる子たちは、戦争の恐ろしさを知ることができないからです。

だから私は、祖母から聞いた話を、ずっと下の世代に引きつぎ、もう二度と、戦争が起らない世界にしたいです。

みんなが戦争の恐ろしさを知っていたら、もう絶対、戦争は起らないと思います。

今も、戦争が起こっている国は、少なくありません。アジアの一部では、今もじゅう声から逃げている人がたくさんいます。

私は、今もどこかで戦争に苦しんでいる人も幸せに生きられる「平和」な世界になるように願っています。世界から、人々の悲鳴じゃなく、人々の喜びの声が聞こえてくる世界に。

そのために、祖母が私に語ってくれたつらい体験を忘れずに、そしてこれからも戦争がなぜ起こってしまったのか、今、私には何ができるのかをしっかりと学んでいきたいと思っています。